

研究大学強化促進事業 ～世界水準の研究大学群の増強～

令和3年度要求・要望額
(前年度予算額)

4,460百万円
4,060百万円

資料2

文部科学省

背景・課題

- 国際的に見ると全体としての我が国の研究力は相対的に低下傾向。
- 研究者一人当たりの研究支援者数が、諸外国と比べて少ない。
- 教育研究体制が複雑化し、研究者が研究に没頭できない。



1. 大学等における研究戦略や知財管理等を担う研究マネジメント人材が必要。
2. 研究者が研究に専念できる集中的な研究環境改革が必要。

令和3年度概算要求のポイント

大学の研究力の回復・加速のため、ポストコロナ社会を見据えたURAによる研究DXを推進

- ① URAによる研究DXを推進するデータ基盤の整備・構築
- ② 研究のDXを推進するURAの重点化

【政府文書における記載】

<日本再興戦略（2013年6月14日閣議決定）>

研究者が研究に没頭し、成果を出せるよう、研究大学強化促進事業等の施策を推進し、リサーチ・アドミニストレーター等の研究支援人材を着実に配置する。

<統合イノベーション戦略2020（令和2年7月17日閣議決定）>

- ・ マネジメント人材やURA、エンジニア等のキャリアパスの確立（URAの認定制度等）
- ・ 優れた研究者等の雇用及び研究活動の継続等への支援に取り組む
- ・ 研究データ等の効果的・効率的な創出・共用・利活用環境の整備等、研究開発環境と研究手法のデジタル転換を推進する

事業概要

【事業目的】

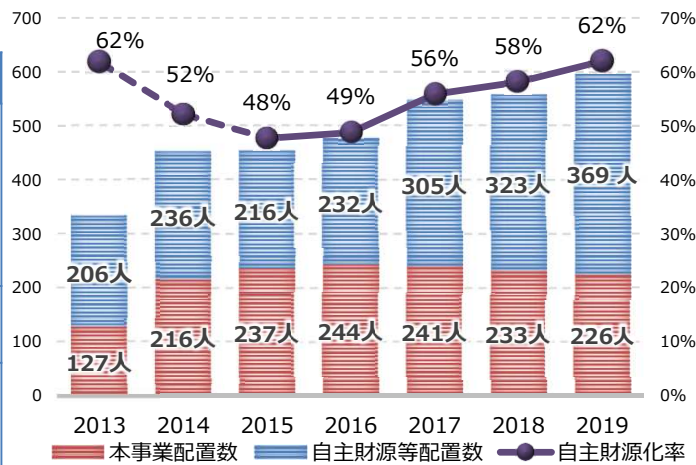
- 大学等における研究戦略や知財管理等を担う**研究マネジメント人材（URAを含む）群の確保・活用**や、**集中的な研究環境改革**を組み合わせた研究力強化の取組を支援し、世界水準の優れた研究活動を行う大学群の増強を目指す。

【事業スキーム】

- 支援対象：大学及び大学共同利用機関法人（研究活動の指標及びヒアリング審査より選定）
- 支援規模：1～3億円程度 / 年×10年（2013年度～）
- 事業評価：学長経験者等で構成された委員会によるEBPMに基づく進捗管理

【支援対象機関（22機関）】

機関種	機関名
国立大学 (17機関)	北海道大学、東北大学、筑波大学、東京大学、東京医科歯科大学、東京工業大学、電気通信大学、名古屋大学、豊橋技術科学大学、京都大学、大阪大学、神戸大学、岡山大学、広島大学、九州大学、熊本大学、奈良先端科学技術大学院大学
私立大学 (2機関)	慶應義塾大学、早稲田大学
大学共同利用機関 (3機関)	自然科学研究機構、高エネルギー加速器研究機構、情報・システム研究機構



URA総配置数と自主財源化率の推移

【成果の例】

- URAによるNatureをはじめとするインパクトファクターの高い論文誌への投稿支援プログラムの実施等による掲載論文数の増加

【Nature Index論文数】

34,169件（2009-2013）

→ **36,518件（2014-2018）**

- URAによる「EurekAlert! Japanポータルサイト」の立ち上げや国際プレスリリース支援等の取組による国際的な認知度向上

【ポータルサイト総閲覧数】

約 13万回（2014）

→ **約164万回（2018）**

- 機関あたり受託研究件数

410件（2012）

→ **596件（2017）**

- コンソーシアム形成による大学間連携

URAのネットワーク・知見を活かし、高度専門人材活用、研究力分析、国際情報発信の取組のほか、異分野融合研究を推進

URAによる研究DXを推進するデータの整備・構築

背景・課題

- 国内外の大学・企業と異分野融合・異分野連携・学際研究を進めるためには、研究者自身は専門を超えた連携を得意としないため、多様なスキル・知識・経験を有するURAによるマッチング活動が不可欠。
- しかし、コロナ禍により産学連携等収入減と産学連携活動の機会損失が発生。産学連携活動の一層の活性化が要請される中、コンフィデンシャルな環境を維持しつつ「新しい研究支援スタイル」に沿った活動がURAに求められている。
- URA先進国の欧米各国においてはURAのためのデータ基盤の整備が進んでおり、我が国においても、早急に整備を実現することで、共同研究の推進が可能になる。
→ ポストコロナ時代の新しい未来を見据えた、研究DXを推進するURAのデータ基盤が必要
- 各大学で取組んでいる異分野融合は、必ずしも成功事例は多くなく、そのノウハウの蓄積も不十分。
→ 信頼が出来る機関が中心となり、成功事例の機微な情報の収集・整理・管理が必要

URA：ユニバーサルサーチアドミニストレーターの略



「URAのための研究データ基盤の整備・構築」

効果

- ✓ **研究者単独では開拓が難しい異分野融合・異分野連携を促進**
 - ・ シーズレベルのコンフィデンシャルな情報も共有可能になり、「新しい研究スタイル」に沿った研究DXを推進
 - ・ バーチャル・カンファレンスの実施、分野ごとにオープンもしくはクローズの情報交換可能な場をURAに提供し、研究支援活動を強かにサポート
- ✓ **「エルゼビア社」の協力を得て研究情報を整理・管理**
 - ・ 研究大学コンソーシアム参加33機関で実施することで、我が国の研究力の中心となる主な大学等研究機関群とURAを網羅
 - ・ 国内はもとより海外を含めたURA主導による異分野融合・産学連携のグッドプラクティス（成功事例）をエビデンスに基づき類型化を行い、新たな共同研究の開拓・シーズ発掘を可能にする

URAのための長期的なデータ基盤としての位置づけ

英国 スノーボール・メトリクス・エクステンジ

構成：英国の研究力の高い8大学（ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン、オックスフォード大学、ケンブリッジ大学等）を中心に構成（エルゼビア社協力）
コンフィデンシャルな情報を相互承認による交換等セキュリティの高いデータ基盤を構築



米国 コラボレート

エヌクラ

構成：米国URA協議会（NCURA）参加メンバー（7500名以上）
情報共有：同協議会が保有する情報基盤を通じて情報交換が可能
バーチャル・カンファレンスの開催、オープン・クローズの議論の場の提供など



URAの業務内容

研究プロジェクトを支援

- ・ プロジェクト企画立案
- ・ 関係や等との折衝・調整
- ・ 外部資金の獲得 など

プレアワード

研究プロジェクト実施を支援

- ・ 進捗管理・予算管理
- ・ 評価対応
- ・ 報告書の作成 など

ポストプレアワード

研究を戦略的に支援

- ・ 政策動向の調査・分析
- ・ 研究力の調査・分析
- ・ 研究戦略の策定 など

研究戦略推進支援

研究を多面的に支援

- ・ 産学連携、国際連携
- ・ 研究倫理・コンプライアンス
- ・ 研究広報、安全管理 など

関連専門業務